

## 市立札幌大通高等学校の取組

### 1. 研究のねらい

本校は 2009 年にユネスコスクールに指定され、その理念を達成するために活動している。ユネスコスクールの理念とは、「①質の高い教育を実践し、普及させる ②人材養成、平和、正義を追求する ③世界中の青少年の教育ニーズに対応する」である。

また、ユネスコスクールは、持続可能な開発のための教育（ESD）の推進拠点になっている。2005 年から「国連 ESD の 10 年」がスタートし、昨年岡山市で締めくくりのユネスコスクール世界大会が開催された。本校の生徒たちもこの間、世界の高校生たちと ESD について議論し、自らの意見を述べてきた。今年度は、昨年度から総合的な学習の時間の中に位置付けた ESD 学習をさらに推進させた。

### 2. 取組内容

#### (1) アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

このプロジェクトは異文化理解という科目の中で行われた。この年度は、ジャパン・アートマイル・オフィスがタイの Plearnpasa Language School を選んでくれた。お互いのことを知り合うことから始まり、テーマである「人種に対するステレオタイプ、偏見をどう克服するか？」の学習を行った。まとめの段階で、スカイプを活用した会議を行い、お互いどのようなことを感じ合ったかを交流した。そして、最後にテーマについて壁画を制作した。歴史的、文化背景的に対立等のあった国



や地域の組合せで人物と食べ物を並置することとした。ベトナムの春巻きを食べるアメリカ人、日本のおにぎりを食べる中国人。ステレオタイプからすると問題を抱える国同士かもしれないが、食はお互いに受け入れられるだろう。食を「偏見を超える」ものの象徴とした。

#### (2) JNNE 教育 NGO ネットワーク 「世界一大きな授業」に参加

「世界一大きな授業」とは、JNNE（教育協力 NGO ネットワーク）主催の世界 100 カ国の子どもたちと一緒に教育について考える世界規模のイベントである。今年度のテーマも「全ての子どもに教育を」である。本校は、例年 4 月の授業開きに「世界一大きな授業」に参加している。日本や世界の教育の現状について知り、教育の大切さ、自分た



ちに何ができるかを考えるとともに、教科横断的学習活動によって、体系的な思考力や多面的かつ総合的なものの見方、「つながり」を意識、尊重する力を養うことが目的である。

本校が単位制であることを活かし、生徒が複数の教科で「全てのこどもに教育を」をテーマにした授業を受けることにより、教科という切り口からテーマに迫り、多角的視点で物事を考えられる様になることをねらいとしている。理科、数学科、地歴公民科、英語科等、19以上の講座で授業を行い、約1か月で延べ約300名の生徒が参加した。

### (3) 2年次「ESD学習」

2年次「ESD学習」は、1年次を発展させたもので、今年度が初めての試みである。12月7日(月)に行われた。テーマは「札幌の身近なESD」である。札幌には、扇状地から生み出される「伏流水」を利用して発展してきた産業があり(味噌、酒、豆腐など)、街の発展を支えてきた。一方で、その発展とともに失われていったものがあることに気付かせ、郷土「札幌のESD」について考えた。

前半は、ESDの概念を復習し、NHKで放送された「ぶらタモリ『札幌』」(録画)を視聴した。この番組では、本校の近辺に明治時代くらいまで湧水(アイヌ語で「MEM」)が湧き出しており、それがなぜ失われたのかを考察しており、この学習に適切であった。

後半は、北海道コカコーラボトリング(株)に協力いただいた。2人の担当者が硬水と軟水の違いを、生徒に水の飲み比べをさせながら説明してくださった。その後、札幌工場の「いろはす」という飲料水の作り方を説明してくださった。企業のポリシーで、くみ上げた地下水はその分地下に戻すようにする。また、水源を汚さないということを徹底しているということであった。これもこの「ESD学習」にタイムリーな内容であった。

## 3. 成果と課題

---

### (1) 成果

昨年度まで、意識の高い生徒たちが、2011大阪アジア太平洋ESDワークショップ、2012日中韓高校生フォーラム、2013大阪アジアESDフォーラムなどに参加して世界の高校生と議論しながら、ESDの理解を深めてきた。そういう生徒たちは昨年の世界大会でも積極的に意見を表明した。そして、世界の高校生から様々な刺激を受けて成長した。今年度は一部の意識の高い生徒たちばかりでなく、一般の生徒に彼らの経験をどのように還元するかという課題があった。上記ESD学習は昨年から1年生の総合的な学習の時間に位置付け、ESDの意味や必要性を学習させた。今年度は2年生にも、発展的な学習をさせた。内容は、上記の通りである。

### (2) 課題

今年度は、中国の高校生と韓国の大学生・高校生の2回の訪問があり、お互いに胸襟を開いて語り合い、大変意義のある国際交流ができた。また、ESD学習のプログラムも、当初はなかなかいいものが考えつかなかったが、外部の組織の協力もあり生徒を飽きさせないものにできた。担当の多文化交流会議の先生方は忙しい1年間であった。